

ながの環境パートナーシップ会議
第2回 幹事会 会議記録

- 1 日 時 平成 21 年 11 月 12 日 (木) 18 時 5 分から 19 時 55 分
- 2 場 所 会議室 17 (市役所第二庁舎 10 階)
- 3 出席者 14 人
(高木、塚田、弓場、河西、佐々木、高野、田中 (守)、傳田、錦織、堀池、水野、峯村、山口、渡辺)
- 4 欠席者 2 人
(田中 (昭)、橋本)
- 5 会議内容
 - (1) プロジェクトの推進について
プロジェクトチームの活動状況と今後の活動について
 - ・食品トレイ・レジ袋使用削減プロジェクト、市民の森づくりプロジェクト、太陽エネルギー普及促進プロジェクトから活動記録票が提出された。会員証及び名刺の作成について
 - ・事務局で名刺の台紙を用意し、必要な会員に配付する。
 - ・事務局でカードホルダーを用意 (寄贈予定)、必要に応じ、プロジェクトチームへ貸与する。
 - ・必要な場合は、名刺をカードホルダーに入れ、携帯することで、会員証の代わりとする。新規プロジェクトについて
 - ア 提案の募集、イ 推進プロジェクトの決定、ウ メンバーの募集
 - ・新規プロジェクトは、会員からのものと会員以外からのものを分けて考える必要がある。
 - ・会員からの提案は、P 6 の様式を用い、幹事会へ提出後、プレゼンテーション等により可否を判断する。
 - ・会員以外からの提案募集については、一定のルールが必要になる。このことを検討するスペシャルプロジェクト等の設置について検討する。
 - (2) 長野市廃棄物減量等推進審議会委員の推薦について
 - ・渡辺ヒデ子氏を推薦する。
 - (3) 顧問への就任依頼について
 - ・顧問の選任、役割等について、正副代表及び前計画推進委員会委員長で検討する。
 - (4) ニュースレターについて
 - ・第 19 号を 12 月 20 日頃発行する。
 - ・3 面は、水環境保全プロジェクトに加え、生ごみ削減プロジェクト、4 面は、環境こどもサミットの特集とする。
 - (5) ライトダウンキャンペーンについて
 - ・12 月 16 日 ~ 22 日 にかけて、ライトダウンキャンペーン (冬) を行う。22 日には、JR 長野駅前にてキャンドルナイトコンサートを行う。
 - (6) 規程の整備について、(7) 会員の種別について
 - ・規程の整備、会員の種別については、次回以降の幹事会で協議する。
- 6 次回日程等 (案)
 - (1) 日時 ~~12 月 3 日 (木) 18:00 ~~~

12月4日(金)18:00~

12月7日(月)18:00~

12月8日(火)18:00~

(2) 場所 会議室 17 (市役所第二庁舎 10 階)

(3) 内容 (予定)

プロジェクトの推進について

規程の整備について

その他

7 その他

- ・ 10 月 29 日に開催されたワークショップの際、社団法人長野青年会議所から、間伐材を利用した「箸づくりキット」(箸 1,000 膳分)の寄贈を受けた。
「箸づくりキット」は、11 月 15 日に開催される環境こどもサミットにて配付する。
- ・ 広報ながの 11 月 15 日号の表紙に、市民の森づくりプロジェクトで実施した「秋の里山散策」の様子が掲載されている。

8 主な質疑

会員証及び名刺の作成について

P 会議の活動で事業者を訪問する際等に、所属団体の名刺を差出すことは、誤解を招く恐れがある。P 会議で統一した名刺を作成してはどうか。また、P 会議会員である自覚を持っていただくためにも、会員証を作成してはどうか。

名刺の様式は、以前、事務局から各チームリーダーに配付された。

様式のデータがあれば、多くの方は自分で作成することができると思う。自分で作れない人は、事務局に相談するようにはどうか。

全会員分を作る必要はないと思う。プロジェクトの状況に応じ、必要な人が自分で作成、又は事務局でサポートして作成するということがよいのではないか。

事務局では、名刺の台紙を用意しておいてほしい。

会員証は、名刺をカードホルダーに入れるのではないのか。

イベント等の際、顔写真入りの会員証があればよいのではないかとということ。

P 会議発足当初、顔写真入りの会員証のようなものを作ったが、それを使った記憶がない。

現実的には、名刺をカードホルダーに入れることで対応できるのではないか。

イベント等の際には、スタッフか参加者かの区別が付けばよい。また、作業の際には、カードホルダーを首からぶら下げると危険になる場合がある。

プロジェクトチームによって、会員証の要不要がある。

カードホルダーを 30 個くらい、P 会議へ寄贈できる。

カードホルダーは、事務局で管理し、必要に応じて貸出すようにはどうか。常時必要なプロジェクトについては、チームリーダーに管理をお願いするようになると思う。

新規プロジェクトについて

新規プロジェクトについては、会員からの提案と会員外からの提案に分けて検討する必要があるのではないか。

はじめは、会員からの提案された新規プロジェクトについての対応を検討することにして、会員外からの提案については、別途スペシャルプロジェクト等を設置し、検討することも考えられる。

会員から募集する場合でも、提案者からプレゼンテーション等をしてもらった方が、内容が伝わる。

現状のプロジェクトを推進するのみでは発展性がないということが、会則改正の目的の一つであった。新体制では、新たなプロジェクトが次々に生まれてくるような団

体にしたいという思いがあった。このようなことから、会員外からの提案等を積極的に取入れ、同時に会員になってもらえるような仕組みを検討する必要がある。

新規プロジェクトの実施や予算配分については、幹事会で決定していくことが必要になる。

現状のプロジェクトのあり方についても見直す必要がある。現在は、アジェンダや年度毎の活動目標・活動計画等によって、がんじがらめになっている。終期も設定していないために、成果が上がってもそうでなくても同じようなことを継続している。

計画に沿ってきっちり進めることも大切ではあるが、会員以外の者にとってみれば、このことが障壁となり、また発展性を妨げてみいる。

アジェンダの中で具体的な各プロジェクトの上には、サブビジョンが設定してある。このサブビジョンを軸にプロジェクトを再編することも考えられる。

新たなプロジェクトを担うのは、提案する人たち、新たな会員と考えた方が発展性がある。

できるだけ早く新しいプロジェクトを推進できるようにするには、幹事会で協議するのではなく、例えば、幹事会の中に部会やスペシャルプロジェクトを設けて原案を練っていかないと話はまとまらない。

原案とは、何の原案か。

新規プロジェクトの募集の仕方等である。

現在の会員の中から募って、新規プロジェクトの募集について検討するのは難しいので、幹事メンバーでスペシャルプロジェクトを構成するのが好ましい。

幹事会の下に、会則第4条第1項～4項：組織に関することを検討するプロジェクトと第5項：広報に関することを検討するプロジェクトを設置してはいかがか。

会則第4条は、P会議が行う事業について規定したもの。今は、新規プロジェクトについて検討している。重要な事項かもしれないが、本題ではない。提案があるのなら、内容をまとめ、次回の幹事会に提出してほしい。

これまでの内容をまとめると、概ね次のようになる。新規プロジェクトは、会員からのものと会員以外からのものを分けて考える必要がある。会員以外からの提案募集については、一定のルールが必要になる。このことを検討するスペシャルプロジェクト等の設置について検討する。

新規プロジェクト様式については、P6のとおりでよいか。

様式は、特に問題ない。ただし、予算の関係もあるので、期限を設けておく必要がある。

会員外からの募集については、現在あるプロジェクトチームのようなものによりプロジェクトが進められるのだと思う。会員から新規プロジェクトが提案されても、どこかのプロジェクトチームに属していれば、そこへ参加するのは難しい。

会員全員が参加できるようなプロジェクト、既存プロジェクトを横につなぐようなプロジェクトを作っていきたい。

会員全員が参加できるプロジェクトがあり、対外的にも広報していけば、PRにもなるし、チーム間の連携も取れるようになる。

問題なのは、幹事会が、会員や一般の人の声を吸上げ、具体化していくかということ。そのために必要なルールは何かということ。

会員以外の人に、P会議について知ってもらうと同時に、門戸を広げておくことが必要。

ルール作りも大切だが、時間は限られている。門戸を広げ、色々な提案ができるような環境だけを作っておいて、提案があった時点で個別に検討すればよいのではないか。

とりあえずは、提案の様式を会員やその他の人に示すということでよいか。

紙だけ出されても、細かなニュアンスは伝わらない。できれば、プレゼンテーション等してほしい。

来年の4月くらいまでには、会員外に対しての新規プロジェクトの募集のシステムを構築したい。

長野市廃棄物減量等推進審議会委員の推薦について

長野市環境部生活環境課から、審議会委員の推薦依頼があった。レジ・トレイプロジェクトチームリーダーでもある渡辺幹事が適当ではないかと思うがいかがか。

渡辺幹事もお引受けいただけるとのことであるので、渡辺幹事を推薦することにしたいが、異議はあるか。

特に無いようなので、渡辺幹事を推薦することにする。

P会議から何人かが市の審議会の委員となっているが、P会議を代表して出ているにも関わらず、個人的と思われる発言をする人がいる。あくまでもP会議の代表として発言してほしい。

私も審議会の委員をしているが、P会議の代表という立場という意識はない。

生活環境課の資料には、「代表者」とあるが、これは誤りである。P会議の代表であれば、代表幹事以外に考えられない。審議会の委員は、個人に委嘱するもの。推薦団体がP会議である。

代表であるなら市民公募とした方がよい。

今の発言の意図が分からない。P会議は、長野市域の環境保全活動を行っている団体である。そのような団体を構成しているのだから推薦依頼があるのではないか。一般市民とは、明らかに違う。

推薦団体から一人出ているという意味からは代表である。しかし、その者がその団体の総意をまとめて発言しなければならないのであれば、何か発言を求められる毎に、団体で確認することが必要である。そのようなことはあり得ない。現実には、所属団体の状況を理解し、所属団体の考え方に沿った意見を言うということになる。

また、審議会委員への委嘱は、個人にされるものである。

() 幹事の意見や質問は、幹事会ですべきことではない。幹事は、貴重な時間を割いて参加している。皆これからのP会議について考えるために来ている。個人的な意見等は控えてほしい。

P会議から推薦を受け審議会の委員等になっている者は、P会議から推薦を受け委員になっていることを自覚の上、発言をしている。P会議としても、そのような方を推薦している。

審議会委員から、審議会の状況について、必要があれば幹事会で話をしていただきたい。

顧問への就任依頼について

P会議の顧問へ就任していただく方々、及びその方々にどのような事をお願いしていくのかを協議いただきたい。

できる規定なので、置かないこともできる。

顧問には、各種業界とのつながりを保つという意味と旧役員がこれまでP会議の意思決定等を行ってきた経験からアドバイスをいただくという意味があると思うがどちらを想定すればよいか。

両方考えられる。

会員になっていただければ尚よいのだが、顧問としてでも関係を持ってほしい業界はいくつかある。

これまでのP会議では、旧役員である各種業界団体に上手く動いてもらえなかった。ある業界団体からは、業界紙でP会議を紹介してもよいと言われながら、実現しなかった。このような団体であれば、是非顧問になってほしい。

また、日本野鳥の会は、市民の森プロジェクトと協働で探鳥会等を行う等、よきパートナーとなっている。

旧役員会のメンバー全てに就任をお願いしてもよいが、それでは旧体制と何ら変わらないように思える。

改組の際、旧役員から何人かは、幹事になっていただけるものと思っていた。来年6月に改選となるが、幹事になっていただけるような者をお願いしておくということも必要に思う。

例えば、旧役員に加藤さんのお名前があるが、加藤さんに幹事に就任いただくということは現実的に不可能である。業界団体の中に、環境部門を持つところが増えてきている。環境部門の何方かに顧問や幹事をお願いする方が現実的である。

旧役員は、約6年前に選任されて以降、ほとんど変わっていない。中には、現在では、内容がないような団体も含まれている。

旧役員の所属団体以外にも、例えば、長野青年会議所等積極的に活動している団体がいくつもある。

協働して、シナジーを得られるようなところを中心に依頼した方がよいと思う。

何名に依頼するのか等も決まっていない。

まだ、団体会員の役割等についての整理がされていない。この段階で、顧問について協議するのは難しい。

旧体制では、小委員会の前に、正副会を開催し、小委員会での協議事項について事前に方向付け等されていた。体制は変わったが、正副代表+前計画推進委員長で、幹事会の事前打合せを行えないか。

本来であれば会員になっていただきたいところだが、それは難しいと考えられるので、顧問を設けた。

いわゆる顧問とサポーター的な役割の両方を期待している。例えば、日本野鳥の会は、P会議の外にいるのだが、一緒に活動をしたりしている。

顧問の役割については、整理する必要がある。

来年6月までに、例えば、サポーター制度のようなものを考え、会則を改正することもできる。

幹事会の役割の一つは、来年6月までにP会議の体制を整えることである。

その案を誰が作ればよいか。

顧問の役割について検討するワーキンググループを設置してはどうか。

今日出てきた話なので、誰が担当するということは今日は決定しないが、それぞれの幹事で検討しておいてほしい。

正副代表+前計画推進委員長で案を作っただけでないか。

正副代表+前計画推進委員長で、原案を作成し、次回提出したい。

ニュースレターについて

12月20日に第19号を発行したい。内容は、1面：総会、新役員の紹介、ホームページの更新、2面：レジ・トレイ削減、太陽エネルギー、3面：水環境保全、生ごみ削減、4面：会員寄稿2名、事務局からのお知らせと考えている。タイムスケジュールは、資料のとおり。

この頃ニュースレターが郵送されている。経費節減の観点から、チームリーダーを通じての配付としてはどうか。また、そうでなくてもホームページに掲載してあるし、環境政策課の窓口に置いてもある。封筒もゴミになってしまう。(資源)

毎回郵送しているものではない。会則の変更、総会等の通知と合わせて郵送していたものである。(H20年5月の小委員会以後、原則としてリーダーを通じて配付)

プロジェクトチームに入っていない会員へは、郵送せざるを得ない。

会員寄稿コーナーへ寄稿いただける方を紹介してほしい。

プロジェクトに属していない会員からの寄稿も考えられる。

こどもサミットに関連して、学校版EMSの活動も紹介したい。

こどもサミットの実行委員会にP会議も入っている。学校版EMSと市民の森づくりが関係している。

4面をこどもサミットの特集のようにできないか。

4面をこどもサミットの特集とする。

ライトダウンキャンペーンについて

冬にもライトダウンキャンペーンを行いたい。P会議ホームページからのリンクの設置、実行委員会への参加をお願いしたい。

資料P14、3の「協力」を「協力予定」に、「屋代高校マンドリン班」を「屋代高校ギター・マンドリン班」に訂正してほしい。

次回幹事会

次回幹事会は、12月8日（火）午後6時から開始する。

場所は、e-mailにてお知らせする。